

建築研究機關の擴充

矢道七郎

日本人が滿洲に進出したのは日露戦争直後で、今から30數年前である。其當時の滿鐵總裁後藤伯爵は滿洲に100萬の日本人の移住を考へられて居たと云ふ事で、日本の大陸進出の意氣は甚だ壯なるものがあつた。滿鐵の建築家は此意氣を以て當時の内地に先んじ歐米の新建築を取り入れ、誠に見るべき功蹟を残したと云はなければならない。露西亞の残して置いた建築施設を参考にして、それにも敗けない都市の建設が企畫せられ、建築物も一應は寒地に進出した日本人に對して、遺憾のない程度に迄設備されたものが建設されて來たが、之は主として南滿地方に對してであつた。滿洲國建國後は世界中でも最も寒い地方に迄日本人が進出し、其所に都市を建設永住しなければならない事になつた。在來の南滿に於ける多年の經驗では處置しかねる事態も生じて來た。滿鐵では社業の必要上、研究機關を其機構名稱種々變遷はして來て居るが、現在鐵道總局の中に鐵道技術研究所を設けて居る。建築方面の研究も此研究所の一部門である土木部門の、更に一斑である構築で行はれて來た。毎年の滿鐵の建築工事は相當の額に上るし、人材も多數集めて居るし、各建築箇所でも必要に應じ種々の研究調査も行つて居る。例へば酷寒對策委員會の如きものであるが、基本的の建築科學の研究に更に力を注いで貰ふため、常設の研究所の機構上の改善が望ましい。

一方滿洲國に於ては、科學の殿堂として大陸科學院を設立し、大陸の開發文化の向上に努力せられて居る事は誠に喜ばしい事である。大陸科學院内には建築研究室が設けられ、有能な研究官を集め斯界の權威ある研究が着々進められつつある事は頼もしい事ではあるが、之も慾を云へばもつと機構を擴充し、各専門部門を獨立の研究室に迄強化し徹底的の研究を進められる様にしたいものである。

現在の建築界は多事多難で、事變遂行、東亞共榮圈確立、高度國防國家建設、生産力擴充等あらゆる方面からの要求に應ずるため、建築の大量生産が望まれるに、一方資材不足等から、住宅難、代用資材の發見、建築構造並に施工法の改變、防空設備の實施等多方面の問題が山積し之等當面の要求の打解策が必要にせまれて居る。建築研究の多くが此等の應急策に振り向けられるのは止むを得ない事ではあるが、滿洲建築の質的向上を計るため根本的に在來の建築を再検討して科學的角度から見直して見ると云ふ事が最重要な點であり、將來の發展に資する所と思ふ次第である。

奉天省蓋平縣九寨附近の震害報告

(昭和15年8月5日の地震)

奉天鐵道局工務課建築係

芝 村 正 祐
鈴 木 哲 夫
中 村 修 平

—震害報告書紹介—

本報告書は、過般の熊岳城附近の地震に際し當會社建物にも相當被害ありたるため、筆者3名を派し其被害狀況及復舊計畫に關する調査を命じ、尙極力震相の究明に當らしめたるものにして、多忙なる業務の傍ら時間的餘裕にも缺け調査不充分の憾なしとせざるも、此種資料の僅少なる際なれば、參考資料として利用さるれば幸である。尙調査に際し各地に於て御助力を賜はりし各位に對し深甚なる謝意を表する次第である。(甲野繁夫)

目 次

- | | |
|---------|---------|
| 1. 序 | 3. 被害狀況 |
| 2. 地震狀況 | 4. 結 論 |

1. 序

昭和15年8月5日18時55分突發した地震は其の震度、震害の最も甚しかつた九寨附近に於ても「強震、弱」程度であつたが、滿洲に於ける地震としては近來に無い激しいものであり、其の被害も局部的ではあつたが相當量に達し、九寨西方6kmの二臺子の民家は全滅に近い狀況であつた。我等一行3名社命に依り8月8日より8月11日迄5日間、奉天、大連、營口各觀測所と連絡を取り其の觀測を基とし、大石橋、瓦房店兩工務區の實情報告を受け、實地調査を行つた。尙現地に於ける聞込等に依り、九寨より西方(地圖に點線記入)地區の被害をも合せ調査したのであるが、連日の雨は震災後の崩壊を來し、民家の修理、跡片付等のために所期の成果を擧げ得なかつた事は甚だ遺憾であつた。

調査地 熊岳城、九寨、長嶺子、二臺子、廂藍旗、號房、三家子、九龍地、窑上屯、許家屯、萬家嶺

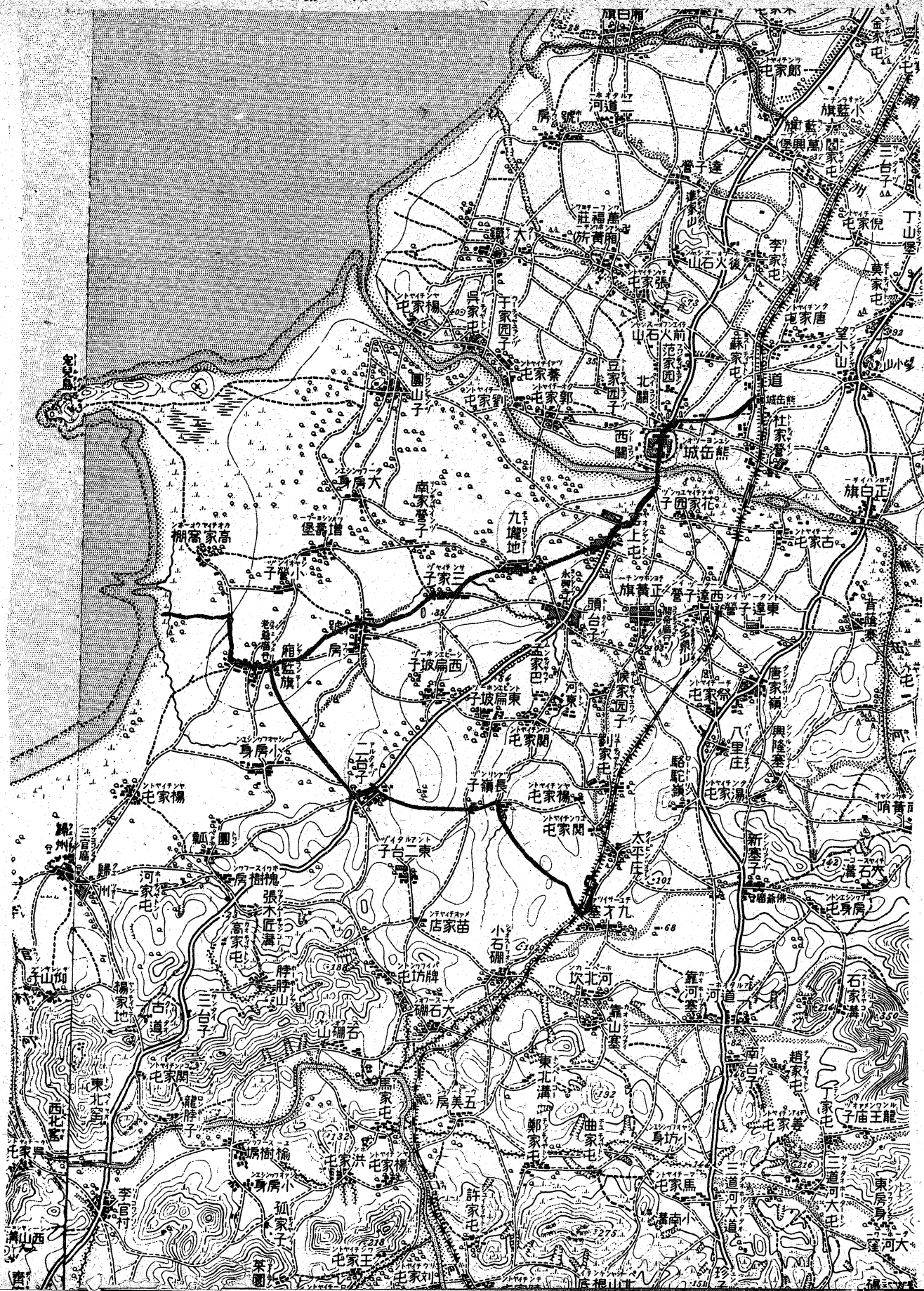
本調査中、大石橋工務區飯岡、笠原兩助役、布施、藤田兩氏、瓦房店工務區今村助役諸氏並に滿鐵調査部新帶國太郎氏、奉天、營口、大連各觀測所々員の方々の多大なる援助と指導に對し深甚なる謝意を表する。

2. 地震狀況

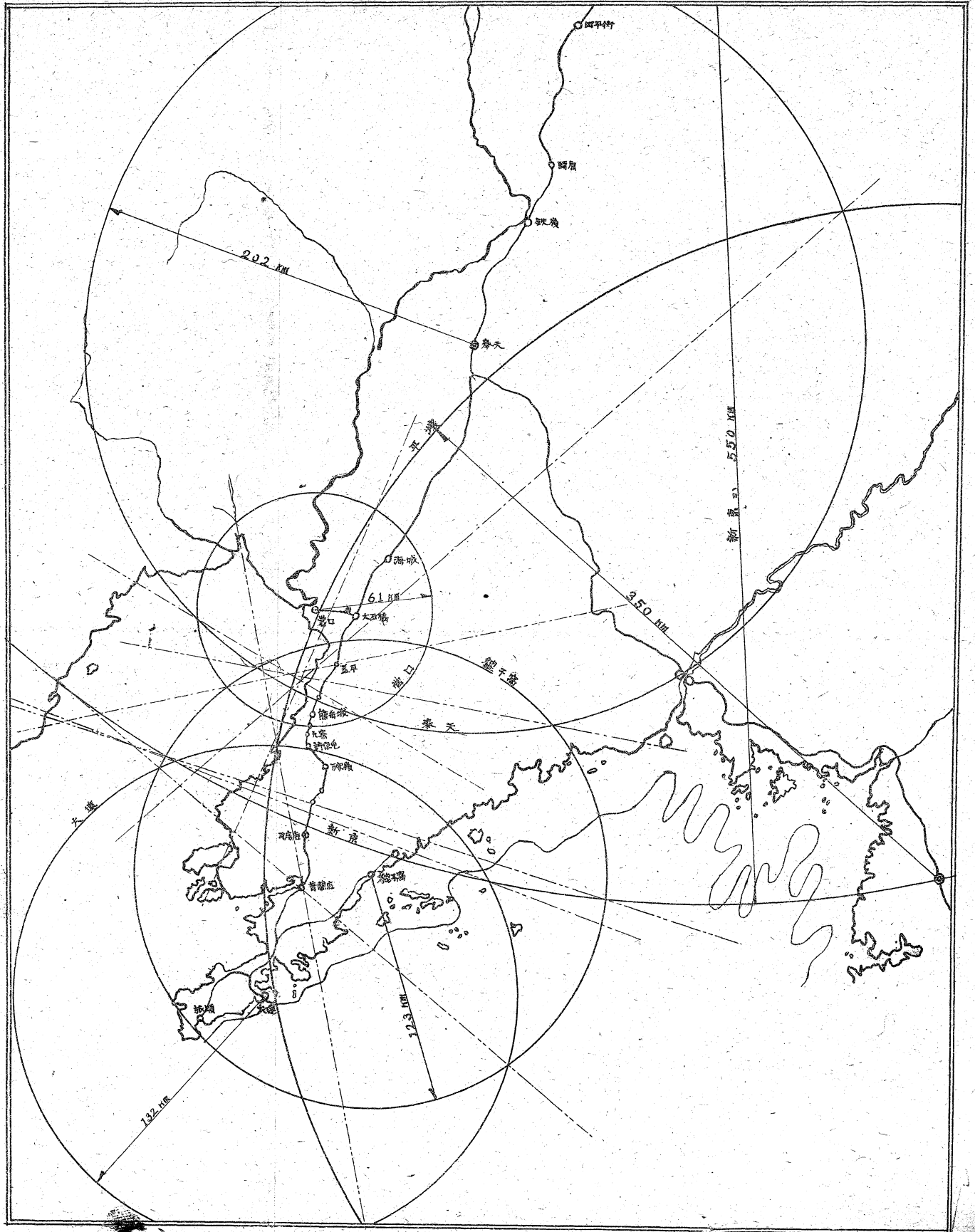
滿洲に於ける地震驗測設備の貧弱、殊に地震計網の不完備は今回の地震の調査に於ても大なる障りとなり、地震機構等につき明確な判斷は下し得ないが、大連、營口、奉天其他の觀測所に於て得た記録並に震害地の被害狀況等より今回の地震狀況を述べると次の如くである。

震 度 分 布

第 1 圖 踏 查 範 圍



第 2 圖 震 央、震 源 推 側 圖



營口、九塞附近地質圖

滿鐵地質調查所 調查

□ 第四紀
Quaternary

酸性岩
Acidic Rocks
石英斑岩-長石斑岩
Quartz Porphyry
Orthopyre Fagmalite

片麻岩類
Gneiss Complex
黑雲母-花崗麻岩
角閃花崗片麻岩
Biotite Granite Gneiss
Hornblende Granite Gneiss

花崗岩類
Granite Complex
斑狀花崗岩
細粒花崗岩
粗粒花崗岩
Porphyritic Granite
Fine Granular Granite
Course Granular Granite

基性岩
Basie Rock
玢岩 閃綠岩
Porphyrite Diorite

片岩類
Schist Complex
角閃片岩 角閃岩
千枚岩 糜殼岩 片岩
Hornblende Quartz Schist
Phyllite Psyllitic Slate Schist

砂岩類
Quartzite Complex
砂岩 砂岩 礫岩
Quartzite Sandstone
Conglomerate

石灰岩類
Lime stone Complex
白雲岩 頁岩 土層
蛇紋石 頁岩 頁岩
Dolomite Magnesite
Crystalline limestone
Clays late

寒武紀亞期下層
Lower Series
of Cambrian
砂岩 砂岩
Quartzite
Siliceous Slate

前寒武紀亞期
Pre-Cambrian

遼東灣

